

弘大 「啓発型健診」 普及目指す

即日結果、健康指導



ステップ検査で歩幅を測定するみちのく銀行の職員 (手前) = 28日午前

弘前大学は本年度、健診と結果判定、健康指導を即日行う「啓発型(新型)健診」を県内企業で普及させるため、検証作業を本格化させる。本県は、働き盛りの死亡率が全国より高く、短命県の要因となっているため、職場での健康教育と意識啓発を推進する考え。28日には、みちのく銀行本店(青森市)で測定会(検証試験)を行い、職員が体組成、内臓脂肪、骨密度など8項目の検査を受けた。

啓発型健診は、弘大と、国のCOI(センター・オブ・イノベーション)プロジェクト参画機関が開発した。立ち上がりなどの運動機能のほか、野菜の摂取状況、唾液などの検査項目があるのが特徴。2017年からシバタ医理科(弘前市)、東北化学薬品(同)で、試行的に実施し一定の成果があったため、さらに検査項目を絞り込むなどして本年度、地銀2行などで測

みち銀で測定会、検証進める

定を実施。本格導入へ向けた検証を進める。みちのく銀行の測定会は30日まで、30代以上の職員200人を対象に実施する。今回の結果は即日ではなく、7月ごろ説明される。28日、立ち上がりやステップ検査などを積極的に受けていた工藤章吾さん(32)は「簡単そうに見えて結構大変」、伊藤麻貴さん(34)は「自分の筋肉のなさを実感した。今回の結果をもとに生活習慣を改善したい」と述べた。同行の保健師・酒井留美さんは「銀行の業務はデスクワークが中心で、運動量が少ない。今回の測定がさらなる健康づくりの意識付けにつながれば」と話した。弘前大の中路重之特任教授は「今、企業に求められていることは実際に健康づくりの取り組みを行うこと」と強調し「啓発型健診の有効性を実証し、大小さまざまな企業で実施されるようにしたい」と語った。

(菊谷賢)